

## ◆JT-KOHKA 起動方法 & 動的解析モジュール設定方法

JIP テクノサイエンス株式会社

### 1) JT-KOHKA 起動方法

Ver. 12 以降の初回起動時、または起動する製品を変更する場合は、以下の①～④をご覧の上、起動してください。

1. スタートメニュー [JIP-耐震] にある「JT-KOHKA\_15 連続高架橋の耐震設計支援プログラム」ショートカットを実行し、ランチャー画面を立ち上げます。



2. ランチャ画面の左上「設定」を押し、「起動プログラム選択」を実行してください。



3. 5種類の製品がありますので、所有する製品を選択し、OK ボタンを押してください。  
※所有していない製品はグレー表示になります。



#### ◆起動プログラムの選択

- ① 2次元版
- ② 2次元版-TDAPⅢ連動
- ③ 3次元版
- ④ 3次元版-TDAPⅢ連動
- ⑤ LT版 2次元版

※①, ③, ⑤は、動的解析エンジン内蔵版です。

※②, ④は、TDAPⅢまたはTDAPⅢLT連動版です。

4. 4種類の道路橋示方書がありますので、適用したいものを選択してください。

なお、既作成し保存しているデータファイルがある場合は、「ファイルを開く」ボタンを押してください。

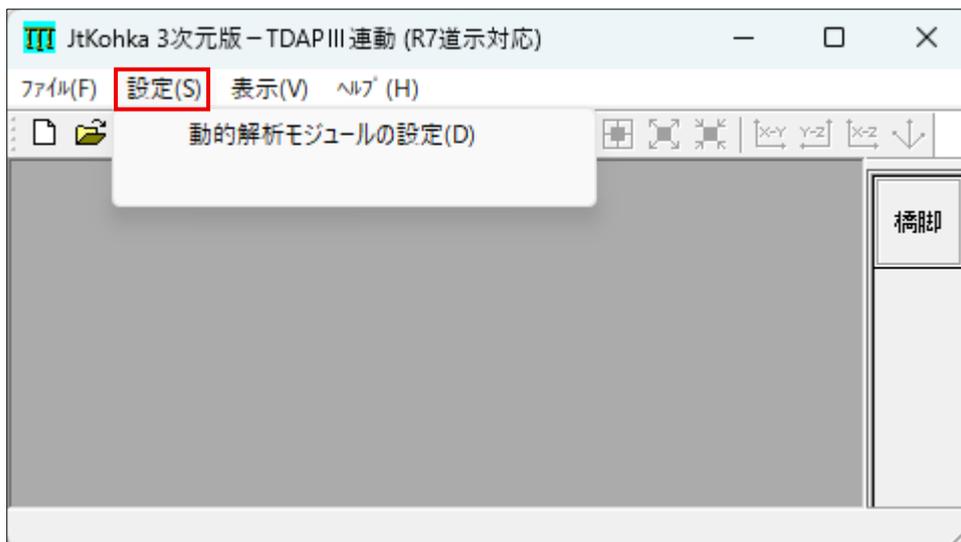


◆道路橋示方書の選択

- ①R7 道示対応
- ②H29 道示対応
- ③H24 道示対応
- ④H14 道示・耐震補強対応

2) JT-KOHKA 動的解析モジュールの設定方法

1. JT-KOHKA を起動し、「設定(S)」メニューの「動的解析モジュールの設定」を実行します。



## 2. 動的解析モジュールのインストールフォルダやパスワードの設定を行います。

動的解析モジュールの設定は、JT-KOHKA 起動プログラムごとに設定項目が異なります。

- ①JT-KOHKA LT 版 2 次元版
- ②JT-KOHKA 2 次元版
- ③JT-KOHKA 2 次元版－TDAPⅢ連動
- ④JT-KOHKA 3 次元版
- ⑤JT-KOHKA 3 次元版－TDAPⅢ連動

※①, ②, ④は動的解析エンジン内蔵版です。

※③, ⑤はお使いの TDAPⅢまたは TDAPⅢLT 連動版 (以下 TDAPⅢ連動版) です。

### ■動的解析モジュール

「JT-KOHKA 2 次元版」または「JT-KOHKA 3 次元版」をご利用の場合は選択してください。

「JT-KOHKA LT 版 2 次元版」または TDAPⅢ連動版をご利用の場合は自動設定(グレー表示)となり選択できません。

#### ◆内蔵エンジン

内蔵 JT-KOHKA 動的解析エンジン内蔵版をご利用される場合に選択してください。

#### ◆製品版 TDAP

製品版 TDAPⅢをご利用される場合に選択してください。

なお、「JT-KOHKA 2 次元版」、または「JT-KOHKA 3 次元版」を所有されている場合で、TDAPⅢを所有、またはレンタルされていれば、製品版 TDAP を選択することにより TDAPⅢをご利用いただくことができます。

### ■動的解析モジュールのインストールフォルダ

製品版 TDAP をご利用の場合、動的解析モジュールのインストールフォルダは、ご利用の TDAPⅢのフォルダを設定してください。

インストールフォルダとして設定された場所に動的解析モジュールがない場合、エラーメッセージが表示されますので、再度設定してください。

## ■動的解析モジュールのライセンス認証

製品版 TDAP をご利用の場合、TDAPⅢのライセンス認証方式を選択してください。

### ◆HASP

HASP キーを使用するハードウェア認証する方式です。

### ◆RLM

Reprise 社が提供する [Reprise License Manager] を使用した、フローティングライセンスで認証する方式です。

## ■動的解析モジュールのパスワード

### ◆内蔵エンジン(起動プログラム①)を選択した場合

ユーザー番号(キー番号)とパスワードの入力は必要ありません。

### ◆内蔵エンジン(起動プログラム②または④)を選択した場合

JT-KOHKA の納品物「JT-KOHKA 動的解析 2D エンジン パスワード」または、「JT-KOHKA 動的解析 3D エンジン パスワード」に記載されたユーザー番号(キー番号)とパスワードを入力します。

### ◆製品版 TDAP(起動プログラム③または⑤)を選択した場合

TDAPⅢの納品物「TDAPⅢパスワード」に記載されたユーザー番号(キー番号)とパスワードを入力します。

TDAPⅢのライセンス認証方式が“RLM”の場合、パスワードの入力が不要になります。

※内蔵エンジンと製品版 TDAP のユーザー番号(キー番号)とパスワードが異なるため、初めて動的解析モジュールを切り替える時にはユーザー番号(キー番号)とパスワードを再設定する必要があります。2回目以降にご利用される場合は、以前に入力された値が自動的に設定されます。

## ■動的解析モジュールのサイズ

製品版 TDAP をご利用の場合、TDAPⅢのモデルにより、サイズを選択してください。

TDAPⅢのモデル	動的解析モジュールのサイズ
TDAPⅢStandard	Standard
TDAPⅢAdvanced	Medium
TDAPⅢUnlimited	Large
TDAPⅢILT	Standard

## ■実行環境の設定

### ◆解析実行後に DOS 画面を残す

DOS 画面を開いたまま、非線形動的解析を実行します。DOS 画面には、解析ステップの進捗状況や、異常終了した場合にはそのメッセージが表示されます。ただし、一波形の計算が終了すると、そこで一旦ストップし、再度リターンキーを押す事でリスタートします。

### ◆解析処理をアイコンの状態で行う

DOS 画面をアイコン化した状態で、非線形動的解析を行います。

(注)“実行環境の設定”の項目を両方ともチェックした状態で動的解析を実行すると、1波形ごとに一旦ストップします。そのため、DOS 画面のアイコンをクリックして開き、リターンキーを押して次の波形データでの計算を再開する必要があります。

## ■OK ボタン

ボタンをクリックすると、設定を更新します。

## ■キャンセルボタン

ボタンをクリックすると、変更された設定を取り消します。

以上

81206202